

活動の名称	耕作放棄茶園をなくせ！「地域課題×環境経営」で問題解決に挑む
概要	農業従事者年齢の高齢化に伴い、管理しきれない耕作放棄地が増加している。「放棄地に単に手を入れる」という対症療法的対応では対処しきれない状況である。今回、我々静岡大学は「産業とPR」を軸として地域課題を解決し地域特性をPRする持続可能農業の社会実装を行う。

SDG s との関係

経済側面	働きがいも 経済成長も	産業と技術革新の 基盤をつくろう	人や国の 不平等をなくそう	つくる責任 つかう責任
	○ 	○ 	— 	○ 
社会側面	貧困をなくそう	飢餓をゼロに	すべての人に 健康と福祉を	質の高い教育を みんなに
	— 	— 	— 	○ 
環境側面	ジェンダー平等を 実現しよう	エネルギーをみんなに そしてクリーンに	住み続けられる まちづくりを	平和と公正を 全ての人に
	— 	○ 	○ 	— 
環境側面	安全な水とトイレを 世界中に	気候変動に 具体的な対策を	海の豊かさを守ろう	陸の豊かさも 守ろう
	— 	○ 	— 	○ 

産業、社会、環境の三側面との関係

産業	静岡大学の成分分析技術とデータサイエンス技術を用いて、当該地域の土壌に適した農作物生産の加速と、成果物の商品化に対して高付加価値化による地域PRを目標としている。
社会	環境教育は実際に、当たり前のように肌で感じしみこませてく事でのみ可能であるため、次世代に環境経営の実装を感じられるプロジェクトとすることを目標としている。
環境	耕作放棄地の管理については、バイオ炭投入による低酸素社会の実現に結びつけるとともに、自然環境に調和した低コスト型農業生産の実施を目標としている。

F U J I 3 S プロジェクトエッグ 実施計画書 事業計画

事業計画

活動の現状	静岡大学、NPO BASS+、Aoi Gin Craft Technology株式会社（AGCT）が協働し、静岡市内の小～中規模面積で耕作放棄地の再生事業に着手するなど、栽培作目転換による地域課題解決に取り組んできた。本活動はメディアにも取り上げられている。
普及計画	NPO 富士山穆清道場が保有する中規模耕作放棄茶園をモデルとした農地再生事業を展開する。大学およびAGCTが持つ研究・経営知見を活用し、栽培放棄された茶樹の撤去→土壌改良→新たな基幹作目の栽培展開→収穫物の加工販売・ブランディング化を実施する。栽培作目としては茶園土壌での作物栽培が比較的転換しやすいベリー系を中心に戦略的に展開し、富士市の次世代基幹作目としてのモデル実証試験を実施し、富士市全体への広範な波及を視野に栽培をマニュアル化する。
目標	2025年3月を目途にモデル実証試験を終え、耕作放棄茶園を対象とした栽培マニュアルを作成する。本実証試験は「環境経営」というサブテーマを設け、定期的に地域住民を対象とした講演を行う。
想定効果	富士市内の耕作放棄茶園の増加を止め、5年後には10ヵ所以上をベリー系栽培転換園に再生する。また、耕作放棄地に対する問題意識の向上をセミナーなどを通じて図る。

スケジュール

	旬・日	実施事項
8月		
9月		
10月		
11月		
12月	上旬	今回のプロジェクトに使用する土地の土壌調査と気候データの検証
	上旬	茶園土壌の改良作業
		ブラックベリー等の移植開始
1月		
	中旬	鳥獣害対策
2月		
3月	上旬	啓発活動開始
	中旬	啓発活動場所でのアンケート調査
	下旬	耕作放棄地周辺での意識調査：啓発効果の検証